第37号

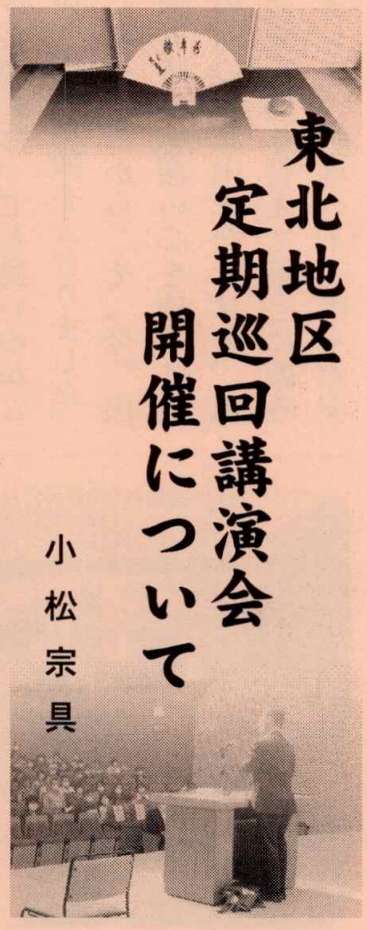
浜かいどう通信

＝発行＝
一般社団法人 茶道裏千家淡交会いわき支部
〒971-8172
福島県いわき市泉玉露3-13-15
伊東宗恭方
TEL・FAX　0246-96-5232

＝編集＝
総務委員会

東北地区定期巡回講演会開催について

小松宗具



令和五年八月二十七日(日)いわき市文化センター大ホールにて東北地区定期巡回講演会が行われました。令和元年郡山市において開催されて以来四年ぶりの開催でした。連日気温三十度を超える残暑のなか四支部合わせて二三〇名にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染症が五月から「五類感染症」となりマスク着用については任意となりましたが、最近の感染状況を考慮しマスクを着用していただくこととといたしました。

会場正面から検温をして三階呈茶席までの案内および大ホール入口での資料配布、会場内では四支部の区分けを明確に掲示することで滞りなく着座まで誘導することができました。

呈茶席は午前十一時から午後一時まで行われました。床は鵬雲斎大宗匠百寿記念の扇面と時の香合、善五郎の鮮やかな青交趾に白木槿を配した和親棚は灯台の数茶碗と相まって会場全体が一層の碧を感じる爽やかなものでした。

講演会は伊藤博人支部長の挨拶にはじまり、筑波大学人文社会系教授・茶道裏千家教授、石塚　修（宗修）先生の「茶席のことば」を演題に講演いただきました。「千利休の茶会抄録」より初めて茶会を催した頃の道具組など文献に基づいた講義に始まり、日本語の「ことば」という言語感覚の幅広さや奥深さを知ることが茶席での会話につながるということを「たしなみ」という表現で講話されました。「鶴」は歌語では「たず」というお話も印象に残りました。今回の講演は大学教授としての講義と茶人としての講話という見方を変えた話の内容が心に響くものとなりました。

支部茶会を終えて

濃茶席担当　管野宗順

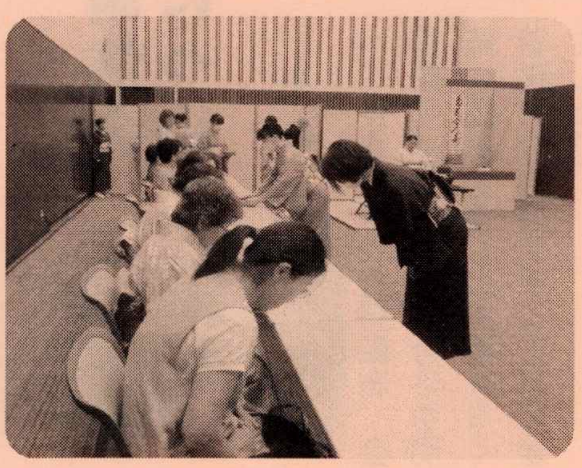
昨年はコロナ禍の中、薄茶席のみの支部茶会でしたが、コロナウイルスが五月八日から五類感染症に移行しまして、いわき産業創造館において四年ぶりに濃茶席を点茶盤を用いて開催いたしました。

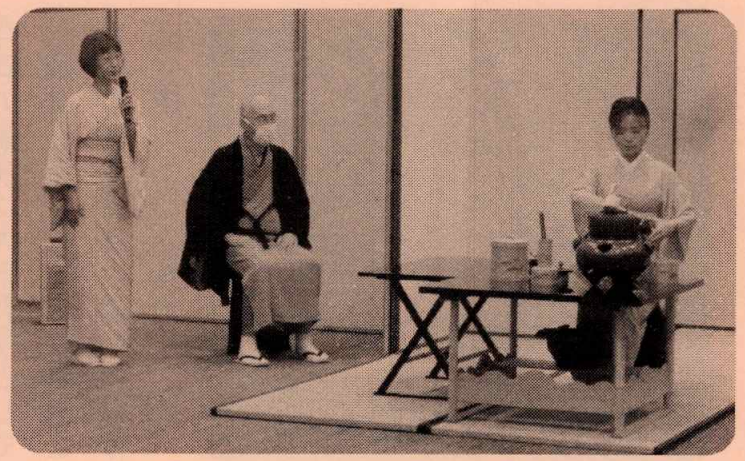
九月十八日(月)が「敬老の日」にあたり長寿のお祝と願いを込め、あらゆるものに対する感謝の心をテーマに、今年の四月に百歳になられました鵬雲斎大宗匠様の「菊花令人寿」をお床に。残暑とはいえ朝晩は秋らしくなり虫籠の香合を飾り、桔梗口の花入に、今日の日の為に早朝五時に水屋を担当された先生が、歩いて探して下さいましたキク科の雌宝香（メタカラコウ）を入れました。

まだ回し飲みが出来ませんので、「喜雲」を、おひとりおひとり様に一碗ずつお出しする事になりました。四年ぶりという事に加えて、このようなおひとり様一碗ずつの水屋は、初めてでしたので当日まで心配と不安でいっぱいでした。

また、十日前に、いわき市内で大雨の災害があり被害に遭われた方々を考えますと、今茶会を行っても良いのかという思いが頭をよぎりました。しかし、だからこそ〝今〟出来る時に感謝の心を持って目の前の事に向き合えばと、気持ちを切り替えて茶会に臨みました。誘導の不手際や水屋の雑音など反省する点は多々ありましたが、担当された会員の皆様が一生懸命自分の役割を責任を持って果たして下さり、コロナ後の茶会を成し終えた事は、大きな糧となったのではないかと思います。

今回お席を準備するにあたり、会場の職員の方、小野美術の方には、本当にお世話になりました。ひとつの事を成し遂げるには、今回担当の会員の皆様はもちろん、多くの方々のご協力のもと行える事を改めて感謝いたしました。大宗匠様のお茶杓の銘「和の心」が心に響く感謝の一日でした。





盆チーム

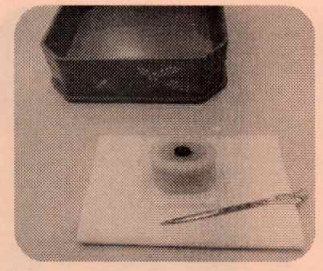
濃茶席担当　本田直美

九月十八日ラトブで支部茶会が開催され、私も微力なが

ら初めてお手伝いをさせて頂く事となりました。

コロナが五類へ移行したとは言え感染が収束しないという状況下で、四年ぶりの濃茶席はおひとりおひとり一碗ずつ差し上げる事となり、一人分の茶の練り具合の調整・数茶碗の準備・感染防止対策等、今までとは随分と勝手が違う事だらけでした。

当日は一席終わる毎に茶碗を給湯室で洗い、テーブルと椅子の消毒と、あっという間に時間が過ぎてしまいました。



お茶と菓子もお客様にお取り頂く形となり「ゆっくり楽しんで頂けただろうか？」と色々反省等ありましたが、久しぶりにお会いした方々が楽しそうに話し込んでいる姿をあちこちで見かけ、台風13号による水害があった中、無事に開催できた事は何よりだったと感じました。

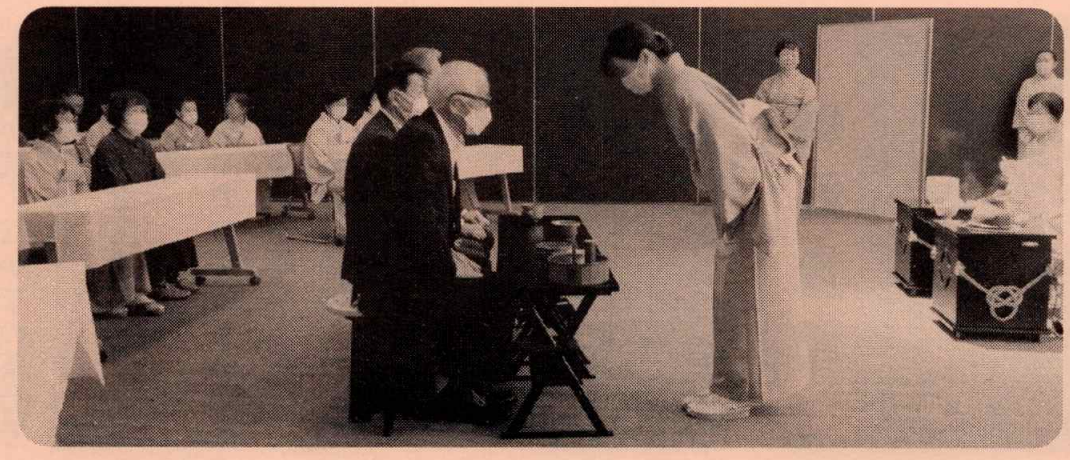
実は十八日の朝、ラグビーワールドカップ日本VSイングランドの結果を知り（12対34で日本の負け）少し残念な気持ちで会場へ向かったのですが、秋らしかぬ暑さの中、足を運んで下さった方々への感謝の気持ちを込め、マスク姿で汗だくになりながら一心不乱にお茶を練る皆の姿は、正にワンチームならぬ「盌チーム！」で胸が熱くなる一日となりました。

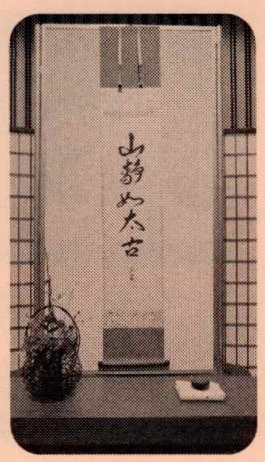
先の地震や水害にあわれた方々の穏やかな生活が一日も早く取り戻せます様、時には一服のお茶をゆっくりと頂ける時間が早く来ます様願っております。

社中を超えて

薄茶席担当　菅野宗浩

一粒万倍日　大安ととても縁起の良い日に　坐忘斎御家元「山静如太古」のお軸に見守られての茶会は、深まり行く秋、鈴虫、とんぼ、虫篭花入には山で摘んだ花々が華やかにお客様を迎えました。御園棚には白く浮かぶ星座の水指、萩の茶碗、干菓子はうさぎ煎餅とさや豆、お客様がお点前を見られるようにと席の配置も工夫しました。前日にお運びの流れ　水屋の流れも皆で案を出し合い、予行練習したこと。それぞれが自分の役割をしっかりと考えて、社中を超えて心を一つに、動くことができたことが大きく、お茶会が終わった後、安心したと同時に心がとっても軽くなりました。先輩の先生方が静かにアドバイスをしてくれたのがとても心強く、茶筅の振り方を丁寧に教えて下さったりと、終始お互いを気遣う様子が感じられ、とてもうれ





しかったです。水屋として茶会前日に小さなことを確認しておくことの大切さ。そして当日、担当者が情報共有し、席主である責任者を助け、自分たちも楽しみながらお客様を誠心誠意おもてなしできたことは、素晴らしいと思います。これからも心軽やかに美しい茶を目指し励みたいと思います。

最後に敬老の日の連休に足を運んでいただいた支部長、副支部長、多くの会員の皆様に感謝申し上げます。

第五十五回 いわき市茶道市民合同茶会に参加して

渡邉宗道

十月一日　いわき市茶道市民合同茶会が、いわき市文化センターにおいて開催されました。

コロナ禍、また文化センターの改修工事等により、七年ぶりの市民茶会ということもあり、各流派が待ち望んでおり競ってのお席となりました。

裏千家においては「秋風にあそぶ」をテーマに、立礼席(御園棚)が設けられました。

本席の床には立花大亀老師筆「清風万里秋」がかけられ、桂籠には沢桔梗、オケラ等五種を生け、清々しさを感じさせておりました。

主茶碗に飴釉の九代長左衛門造り、替茶碗は祥瑞写吉祥兎文　徳泉造りを使い、お菓子は薯蕷饅頭でススキが揺れる「風の音」といたしました。お抹茶は坐忘斎家元好清浄の白を使い、とても美味しいとの声もいただけました。

席中には二五五名のお客様をお迎えすることができました。

席主は柳内宗敏先生で、席中のお道具等を丁寧に説明されており、お客様も興味を注いでおりました。

私はトップバッターのお点前で、緊張のあまり手が震えておりましたが、男性もお点前に加わり、心強く感じました。

酷暑が続くなかでの茶会でもありましたが、少しでも秋の風情を感じて頂けましたら嬉しいです。

たくさんのお客様をお迎えし、一服のお茶を楽しんでいただけて感謝の気持ちでいっぱいです。

このような機会をいただき、更に精進してまいります。

編集後記

今年の夏は、例年になく猛暑が続き、夏の疲れが出た方もいらしたのではないでしょうか。

いつの間にか、秋も深まり炉開きの時候となりました。

今季、コロナウイルスも五類感染症に移行され、各行事が催されました。

浜かいどう通信も今年最後の発行となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。